

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100124		
法人名	有限会社トモメディカルサービス		
事業所名	グループホーム むつみの森 2F		
所在地	長崎県長崎市長浦町2584番地		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地として、大村湾に面しており、自然に囲まれた静かな環境です。早朝には朝日が立ちのぼり、とても素敵な絶景を眺めることができます。入居されている皆様は思い思いの時間を過ごされていて日頃のご様子は写真入りのお便りを3ヶ月毎、ご家族宛に発行しています。現在はコロナ禍で地域行事や交流が自粛されていますが、入居者様の身体的機能の低下やストレスが軽減できるよう、毎日の健康体操や近隣の散歩を実施しています。施設行事はコロナ感染拡大防止に十分配慮して、秋祭りを実施いたしました。今後も、クリスマス会や餅つきを予定しています。日本の伝統や季節感を感じていただける取り組みをおこなっています。また、当施設は医療機関との連携を図っており、医療面や看取りケアも充実していて安心して生活できる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員の一日は、昇る朝日を浴びることから始まっている。理念は「社業をもって地域福祉に貢献すべし」であり、職員は地域との関わりを大切にしている。自治会活動に参加し、小中学生の認知症サポーター養成講座や福祉用具体験学習に協力しており、中学生との暑中見舞いや年賀状での交流は、利用者の楽しみとなっている。職員は各利用者に真摯に向き合い、本人の思いや暮らし方の把握に努め介護計画に反映しており、感染対策を講じてのドライブや事業所周辺の散歩等、閉塞感のない生活を支援している。隣接する協力医療機関との連携による看取り介護は、最期までここで暮らせる安心感があり、家族への信頼にも繋がっている。また、オンラインでの運営推進会議実施は、多方面の参加メンバーの表情を見ながら意見交換ができており、コロナ禍での工夫が窺える。地域の協力を得ながら、地域行事や季節感のある催しを楽しみ、利用者の普通の暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社業をもって地域福祉に貢献すべし」と掲げ、職員はその言葉を念頭におき、業務に就いている。地元出身の職員も多く、顔なじみの関係が保たれていることもあり、開かれた施設を目指し、交流を深めている。	「社業をもって地域福祉に貢献すべし」という企業理念の下、職員は地域との関わりを大切に、地域ぐるみで利用者の暮らしを支えるよう努めている。管理者は、折に触れ職員に話し、職員に浸透しているものの、今後は事業所としての介護目標等も必要ではないかと感じている。	事業所としての介護目標等を掲げることにより、入居者支援において、職員の抛り所となったり、統一した支援に繋がると思われる。全職員で話し合い、作り上げていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の情報は回覧板観覧、電話連絡等おこなっている。地域清掃や花壇整備に参加して交流を深めている。行事についてはコロナ感染拡大防止のため、できていない。	職員は地域清掃や花壇整備等、自治会活動に参加し、小中学生の認知症サポーター養成講座や福祉用具体験学習に協力している。今年から敷地内に週1回移動販売車が訪れ、地域住民に喜ばれている。中学生との暑中見舞いや年賀状での交流は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの有資格者が地域の方や子供たちに向けて認知症サポーター養成講座を開き、認知症の理解、知識の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎、年間6回開催している。ご家族代表・自治会長・民生委員・小学校校長・駐在所・認知症サポーターの方々に参加していただき、情報交換をして共有している。令和2年度より、コロナ感染拡大防止のため、書面やリモート会議の開催となっている。	年6回会議を実施している。コロナ禍により書面会議であったが、今年3月からオンライン会議となり、多方面の参加メンバーの表情を見ながら意見交換が行われていることが議事録から確認できる。家族の参加は輪番制であり、全家族に議事録を配付し、事業所の取組を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今回は、介護相談員の受け入れ要請が無かったが、随時受け付けている。また、行政の方には運営推進会議に参加していただき、意見交換している。認知症カフェへの参加や地域包括支援センター開催の研修に参加している。(今年はオンライン研修)	行政と地域包括支援センターと連携し、地域住民や子ども達に向け認知症について周知を図る取組を行っている。介護認定更新時や書類提出等で窓口に出向き、入居者状況を伝えており、運営上不明点を尋ねたり、相談ができる関係を築いている。担当課職員が利用者面会に訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開いている。施設内勉強会にも取り上げ、身体拘束をしない方針でケアをおこなうよう話し合い、日々取り組んでいる。	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開き、施設内勉強会にて職員に周知し、拘束のないケアに取り組んでいる。日中各階玄関の施錠はなく、一人で外出する様子が見られたら、階下の職員と連携し見守り支援を行っている。また、強い口調等にならないよう言葉掛けにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務のなかで、虐待行為が起きないように、業務での精神的な苦痛がないように職員間で話し合い、注意を払っている。スピーチロックなどは個々に注意して、利用者を傷つけないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は現在いないが、職員の教育が未だに不十分である。勉強会でも取り入れて、外部研修も積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は契約者様が理解できるよう、丁寧な説明を行い同意を得ている。改正がある場合は、ご家族会を開き説明をして、疑問点や不安な点を質疑応答している。今年はコロナ禍のため、リモート開催をおこなった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関にご意見、要望箱を設置している。また、家族会の機会に直接、意見を聞かせていただいている。契約時には行政にも相談窓口がある事を説明している。	苦情・相談対応を明文化し、契約時に家族へ説明している。事業所は家族会や運営推進会議議事録を配付し、家族の要望抽出と理解を図っている。現在は面会の制限があり、電話や3ヶ月毎の広報誌で利用者の様子を知らせているが、家族からはテレビ電話の導入や毎月の状況報告の希望が出ている。	コロナ禍で面会が制限されている状況の家族の心情を思いやり、テレビ電話の検討や利用者の状況を知らせる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員より意見や提案がフロアリーダーにあがった場合は会議を開き、その都度対応している。また、個人面談を年2回開催して、それぞれの意見を聞くようにしている。	職員は、毎月のユニット会議や業務の中で要望や提案を出している。また、施設長と管理者が行う年2回の個人面談では働き方や目標など要望や相談を聞き取っている。管理者は勤務希望の柔軟な対応や資格取得の助成金制度など働きやすい職場作りに努めている。記録方法の改善など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員と準社員、パートタイマーの雇用形態がある。職員のライフスタイルに応じ勤務形態を変更できるようにしている。資格取得等に応じて手当がある。子育て世帯の急な勤務変更や休みも柔軟な対応を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を掲示板に掲載し要望に応じて参加を推進している。又、事業所内でも、月に1回開催の勉強会を行ない、知識・技術の習得をし質の向上を目指している。スキルアップのため、レクリエーションインストラクターや実務者研修をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との交流や研修会への参加を行なっている。地区の事業所研修会にも参加し、意見交換などを行ない質の改善を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接等で入居前の情報をできるだけ取り入れ本人の要望や不安に思う事を傾聴し、安心して過ごすことができるように相談できるような姿勢で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活で困っていた事、不安に思うことの共感や傾聴を行い、家族の希望、要望等も取り入れ安心して頂けるよう話し合いを多く持ちながら良好な関係を築いていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の持っている能力や家族の支援の状況など踏まえて自立した生活に何が必要かを検討し、以前受けられていたサービスや関わりを持っておられた他職種の方々とも情報を共有し、細やかな対応が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を、出来る範囲でして頂いている。すべてを介助するのではなく、できる事を一緒に続けていけるように支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会が難しい状況が続いている為、日頃の生活や様子がわかるようお便りを発行している。状態の変化時には、電話連絡を行い状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご近所の方の面会が難しくなったが、電話代行や手紙を出す支援で、関係性が途切れないように努めている。	面会には家族や同級生、自宅近辺の知人や職場の同僚など訪れているが、コロナ状況に応じて面会や外出を制限している。職員は利用者の新聞購読や花壇の水やり、花の苗の植え付けなど、在宅時代の生活の継続支援に努めている。法要で寺へ家族と行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態やレベルなどを考慮し、気の合う方と一緒に座れる様テーブルの配置の工夫を行っている。難聴の方など孤独になりがちな為、利用者同士の間に入り会話の手助けをしたりしながら、話のきっかけを作れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅や他施設に転居された場合は、その後の様子をお聞かせ頂いて、困ったことがあればいつでも相談できるようお声掛けしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや心の変化など、普段の会話からも感じ取り、表情なども観察している。意向や希望を話せる方には気軽に話してもらい、難しい方の場合は本人の立場になり考え、スタッフや家族の意見など取り入れ検討している。	職員は利用者の生活歴や生活リズムを把握し、入浴や家事仕事などの日々の暮らしの中での会話から、思いや意向を聞き取っている。難聴や会話が困難な利用者は筆談やジェスチャー、表情などから汲み取り職員で検討している。聞き取った思いは記録し申し送りで共有し、介護計画へ繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴や趣味、生活環境を聞かせてもらったり、入居前に担当していたケアマネジャーやサービス事業者の方との情報を共有し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方、過ごす場所を制限しないように努めている。お部屋だけの閉じこもりにならないように身体を動かす機会や参加の声掛け、促しをしている。意思表示が困難な方は仕草、表情、体の動きなどで想いを汲取るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と各ユニットの計画作成担当者、介護職員、医療関係者一同での話し合いを持つ機会が難しく電話で確認したり、個別で意見を確認したり、またモニタリングを行い、その方にサービスがっているか課題や意見を出し合いより良い介護計画になるよう努めている。	長期12ヶ月短期6ヶ月の目標を立てている。見直し時は、居室担当職員のモニタリングと本人・家族の要望、主治医の意見を取り入れ、ケアマネジャーを中心に全職員で話し合っている。計画は本人ができること、生活していく上で基本的なことを目標に掲げ、現状に即したものとなっている。本人・家族の同意を得て実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアを実践し、日々個別に記録し、職員間での情報も共有しながら見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況の変化や家族の状況など、その時々状況を把握し、既存のサービス以外でも柔軟に対応できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域との交流が制限されているが、事業所内での独自の祭りや誕生会、地域中学生との手紙、写真での交流などたのしみを持って頂けるような支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面談において、かかりつけ医の選択はご本人やご家族にして頂いている。専門医を受診する場合はご家族に相談したうえ、対応してもらっている。場合によっては職員対応の受診も行っている。	本人・家族の意向に沿い、かかりつけ医を決定している。基本的に家族が付き添うこととなっており、介助等必要な場合には職員も同行している。受診内容は個人記録に記し、申し送りにて職員間で共有している。母体の医療機関の往診もあり、緊急時には指示を仰いでおり、入居者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との医療連携体制は整えている。日常の健康管理も共有できており、急変時や状態が変化した場合は速やかに連絡して連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはその病院の看護師や地域連携室の相談員などと連携を図り、情報共有や交換を行い、安心して治療に取り組んでもらい、退院時には速やかに対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの支援を行なっている。新規の入居時に指針の説明を行ない、意向調査も行なっている。看取り支援を決定していてもその後にお気持ちの変化がないか面会時や直面された時も再度確認を行っている。医療機関が設置した事業所でもあり、医師や看護師との連携も密である。	入居時に重度化した場合と看取り介護について説明し、家族に同意を得ている。事業所は、隣接する協力医療機関と連携し、家族と協力しながら多数の看取り支援を行っている。職員は勉強会にて知識を身につけ支援しており、看取り後には振り返る機会を設けている。宿泊や付き添い等、家族の精神面を配慮し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	緊急時対応マニュアルを作成し、各フロアに掲載している。施設内勉強会で消防の方を招き訓練や知識を身につけて実践力を付けていけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練を含む防災訓練を年間計画を立てて実行している。地域との連携はコロナ禍によりできていない。火災予防の為オール電化になっており、コンセント周りのホコリの有無や断線していないかなど月に一度チェックしている。	月1回、通報、避難誘導・消火等の訓練を行っており、階下のデイサービスとの合同訓練も実施している。12月には消防署立会いでの夜間想定訓練を予定している。今年度、災害対策マニュアルが完成しており、大雨による浸水被害を想定した、垂直移動の訓練を行っている。ただし、本マニュアルの職員への周知はこれからである。	起こりうる災害を想定し、現状に即したものと異なるよう、自然災害マニュアルの見直しと職員へ周知を図ることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の契約書の提出を義務付けている。一人ひとりの人格や思いを尊重し、その人にあった声掛けやケアを行うよう努めている。個人情報の書類関係等は、鍵がかかる倉庫に保管している。	職員は利用者に尊敬の念を持ち、苗字にさん付けで呼びかけ、傷つけない言葉掛けを心掛けている。また、羞恥心に配慮した支援に努めている。個人情報の取り扱いには写真掲載を含め、同意の署名を得ている。書類関係の保管場所も適切である。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく多く利用者との会話を心がけているが、思いを上手く伝える事ができない方に対しては普段の様子をよく観察し、表情や仕草などから理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や日課を優先するのではなく、体調などを考えその方に合った過ごし方ができるよう努めるようにしているが、時々職員側の都合で思うように過ごせていない方もいるように感じられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は洗顔をして頂き、髪の毛のセットを行っている。出来ない方はお手伝いをさせて頂いている。定期的に美容室の方から訪問をして頂き、散髪の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事の提供や、畑に植えた野菜等を一緒に収穫し、食事やおやつなどに提供している。又、惣菜の盛り付けや、食後の後片づけなど利用者と一緒にやっている。	菜園や季節の野菜を用い、利用者希望の献立を反映し、併設の通所厨房が調理している。利用者は盛り付けや片付けなど手伝っている。アレルギーや嗜好に対応し、毎日、麺類を食べる利用者やノンアルコールビールの晩酌など在宅時の食習慣の継続を支援している。また、嚥下体操の工夫で嚥下機能低下の予防に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量など細かく観察、記入を行い栄養状態を把握している。食事の形態も、主治医に相談しアドバイスを受け、その人に合った形態での提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせたブラシを使用し、ご自身で行える方は見守りを行い、介助が必要な利用者には職員が行っている。必要に応じ、提携先の歯科医による往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。又、ご自身でうまく伝えられない方は、合図や仕草などみながら、羞恥心に心がけ誘導を行うようにしている。夜間オムツを使用されている方も日中はトイレでの排泄を行えるよう介助を行っている。	職員は排泄表を基に、利用者の排泄リズムを把握共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、失禁のないように声掛けや誘導を心掛けている。また、排泄の改善に向けての話し合いや統一した支援方法を検討するなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をできるだけ多く摂取して頂く様、起床時・臥床時などにも行うようにしている。身体を動かし自然排便にも心掛けてはいるが、状況により下剤を使用する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日の入浴を実施しており、週2～3回を目安に声を掛けている。無理はせず利用者の気持ちを優先している。羞恥心に配慮し、安心して入浴できるよう職員は声を掛け、利用者が苦手なことをお手伝いしリラックスできる入浴時間を提供している。	入浴は毎日準備し、週2、3回を基本としている。車椅子の利用者は2人介助で浴槽へ浸っている。立位困難な利用者は併設の通所の特浴を使用している。ゆず湯や菖蒲湯の他、同性介助の希望に対応している。好みのシャンプー類の持ち込みなど楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や習慣に合わせて自室にて横になることもある。体調のすぐれない方以外は昼夜逆転しないように、適度に声掛けし離床を促す声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や往診後の薬が変更などあった場合は、薬局からの情報提供を頂き日誌、申し送りに記録し全職員に報告している。お薬手帳の管理を行い、服薬後に異常があった場合は主治医へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活の中で続けてこられた事を続けて頂けるように、お花が好きな方には花壇の花の植え付けや水やりなどを行って頂いている。施設周りの散歩やドライブなどの気分転換にも力をいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援は難しい状況であるが、施設周りの散歩は日課に取り入れている。ドライブは車外へ降車することをせず実施している。	コロナ禍で、賑わう場所へ出掛けることは無くなったが、感染リスクを避けた外出支援を行っている。季節の花見や海岸線沿いの遠出のドライブなど車椅子の利用者も出掛けている。毎日、多くの利用者が一緒に散歩したり、天気の良い日は事業所前の堤防で釣りをする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、ご本人の了解を得て事務所にしてお預かりしている。必要時には、事務所より現金を預かり買い物などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ご家族の同意の下本人より連絡を行ったり、かかってきた際にも話をさせていただいてる。職員が代わりに連絡を取ったりもしている。手紙等は、職員がお手伝いをしながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレ、フロアーなど常に掃除を行い清潔にしている。季節が感じられる飾り付けを行い、廊下には行事や外出した時の写真等を展示している。	リビングは利用者が活動しやすいよう、レクリエーションの道具やテーブル、椅子等の調度類を配置している。季節ごとの飾り付けを施し、壁には利用者の作品や行事などの写真を掲示している。混乱しないよう鏡や収納場所扉等に目隠しを付ける配慮も見られる。職員は毎日清掃、換気、空調管理を行い居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングには、共有のソファを設置し気の合った同士が楽しく過ごせるよう工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には本人が使用していた家具、調度品を置き出しの品なども飾って頂いている。利用者の希望でテレビを置くことができ、自宅と同じ様雰囲気を出している。又、定期的に各担当が環境整備も行っている。	居室への持込み品に制限はなく、テレビや仏壇、筆筒、家族写真等を配し個性的な居室となっている。ベッドの硬さも本人の意向を汲んでいる。植木の水やりや髭剃り、化粧等在宅時の生活習慣が垣間見える。毎朝、職員が換気し、清掃を行い、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内、居室、トイレ浴室などすべて手すりを設置し、歩行される場所には、障害物等を置かないようにしている。又、居室には手作りの名前プレートを付けご自分の部屋が分かる様に工夫を行い、トイレにも目印を貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100124		
法人名	有限会社トモメディカルサービス		
事業所名	グループホーム むつみの森 3F		
所在地	長崎県長崎市長浦町2584番地		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地として、大村湾に面しており、自然に囲まれた静かな環境です。早朝には朝日が立ちのぼり、とても素敵な絶景を眺めることができます。入居されている皆様は思い思いの時間を過ごされていて日頃のご様子は写真入りのお便りを3ヶ月毎、ご家族宛に発行しています。現在はコロナ禍で地域行事や交流が自粛されていますが、入居者様の身体的機能の低下やストレスが軽減できるよう、毎日の健康体操や近隣の散歩を実施しています。施設行事はコロナ感染拡大防止に十分配慮して、秋祭りを実施いたしました。今後も、クリスマス会や餅つきを予定しています。日本の伝統や季節感を感じていただける取り組みをおこなっています。また、当施設は医療機関との連携を図っており、医療面や看取りケアも充実していて安心して生活できる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社業をもって地域福祉に貢献すべし」と掲げ、職員はその言葉を念頭におき、業務に就いている。地元出身の職員も多く、顔なじみの関係が保たれていることもあり、開かれた施設を目指し、交流を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の情報は回覧板観覧、電話連絡等おこなっている。地域清掃や花壇整備に参加して交流を深めている。行事についてはコロナ感染拡大防止のため、できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの有資格者が地域の方や子供たちに向けて認知症サポーター養成講座を開き、認知症の理解、知識の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎、年間6回開催している。ご家族代表・自治会長・民生委員・小学校校長・駐在所・認知症サポーターの方々に参加していただき、情報交換をして共有している。令和2年度より、コロナ感染拡大防止のため、書面やリモート会議の開催となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今回は、介護相談員の受け入れ要請が無かったが、随時受け付けている。また、行政の方には運営推進会議に参加していただき、意見交換している。認知症カフェへの参加や地域包括支援センター開催の研修に参加している。(今年はオンライン研修)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開いている。施設内勉強会にも取り上げ、身体拘束をしない方針でケアをおこなうよう話し合い、日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務のなかで、虐待行為が起きないように、業務での精神的な苦痛がないように職員間で話し合い、注意を払っている。スピーチロックなどは個々に注意して、利用者を傷つけないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は現在いないが、職員の教育が未だに不十分である。勉強会でも取り入れて、外部研修も積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は契約者様が理解できるよう、丁寧な説明を行い同意を得ている。改正がある場合は、ご家族会を開き説明をして、疑問点や不安な点を質疑応答している。今年はコロナ禍のため、リモート開催をおこなった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関にご意見、要望箱を設置している。また、家族会の機会に直接、意見を聞かせていただいている。契約時には行政にも相談窓口がある事を説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員より意見や提案がフロアリーダーにあがった場合は会議を開き、その都度対応している。また、個人面談を年2回開催して、それぞれの意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員と準社員、パートタイマーの雇用形態がある。職員のライフスタイルに応じ勤務形態を変更できるようにしている。資格取得等に応じて手当がある。子育て世帯の急な勤務変更や休みも柔軟な対応を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を掲示板に掲載し要望に応じて参加を推進している。又、事業所内でも、月に1回開催の勉強会を行ない、知識・技術の習得をし質の向上を目指している。スキルアップのため、レクリエーションインストラクターや実務者研修をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との交流や研修会への参加を行なっている。地区の事業所研修会にも参加し、意見交換などを行ない質の改善を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に本人の望む暮らしや不安についてお話を伺い、落ち着いた生活が送れるように、いつでも相談できるような雰囲気作りのために、積極的な声かけと傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活で困っていたことや不安をお聞きし、共感を示しながらご家族の希望や要望を伺い、信頼関係を構築していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の持っている能力や家族の支援の状況をふまえて、自立した生活には何が必要かを検討し、フォーマル、インフォーマルを活用したケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おかずの次ぎ分け、食器洗い、洗濯物干しやたたみ、ごみ箱作り等を積極的にお願いし、生活に張りを持たせ、楽しみながら活動できるよう支援している。感謝の言葉も忘れないように心掛けている。但し、無理強いはいしない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を説明していたが、コロナの状況下では面会が極度に制限されており、電話連絡の機会を増やし、季刊誌やお便り等でも近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況下では地域行事やサロン等には参加できず、電話代行や手紙、年賀状作成等の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の座席の配置の工夫、梅干し作りやつわの皮むき、ケーキ作り等の共同作業を行い、話がしやすい環境作りに心掛けている。孤立しやすい入居者には職員が個別に声掛けを行い、話ができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅や他施設に転居された場合は、その後の様子をお聞きし、困ったことがあればいつでも相談して頂けるよう、お声掛けしをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや心の変化など、普段の会話からも感じ取り、表情なども観察している。意向や希望を話せる方には気軽に話してもらい、難しい方の場合には本人の立場になり考え、スタッフや家族の意見など取り入れ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴や趣味、生活環境を聞かせてもらったり、入居前に担当していたケアマネジャーやサービス事業者の方との情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの過ごし方、過ごす場所を制限しないように努めている。お部屋だけの閉じこもりにならないように身体を動かす機会や参加の声掛け、促しをしている。意思表示が困難な方は仕草、表情、体の動きなどで想いを汲取るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と各ユニットの計画作成担当者、介護職員、医療関係者一同での話し合いを持つ機会が難しく電話で確認したり、個別で意見を確認したり、またモニタリングを行い、その方にサービスがあっているか課題や意見を出し合いより良い介護計画になるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアを実践し、日々個別に記録し、職員間での情報も共有しながら見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況の変化や家族の状況など、その時々状況を把握し、既存のサービス以外でも柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域との交流が制限されているが、事業所内での独自の祭りや誕生会、地域中学生との手紙、写真での交流などたのしみを持って頂けるような支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面談において、かかりつけ医の選択はご本人やご家族にして頂いている。専門医を受診する場合はご家族に相談したうえ、対応してもらっている。場合によっては職員対応の受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との医療連携体制は整えている。日常の健康管理も共有できており、急変時や状態が変化した場合は速やかに連絡して連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはその病院の看護師や地域連携室の相談員などと連携を図り、情報共有や交換を行い、安心して治療に取り組んでもらい、退院時には速やかに対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの支援を行なっている。新規の入居時に指針の説明を行ない、意向調査も行なっている。看取り支援を決定していてもその後にお気持ちの変化がないか面会時や直面された時も再度確認を行っている。医療機関が設置した事業所でもあり、医師や看護師との連携も密である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、各フロアーに掲載している。施設内勉強会で消防の方を招き訓練や知識を身につけて実践力をつけていけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練を含む防災訓練を年間計画を立てて実行している。地域との連携はコロナ禍によりできていない。火災予防の為にオール電化になっており、コンセント周りのホコリの有無や断線していないかなど月に一度チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の誓約書の提出を義務付けている。個人情報の書類等は鍵のかかる書庫に保管している。入居者の声掛けは名前を呼ぶこと。トイレ誘導などの日常生活上の会話においても失礼のないように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話は傾聴を基本とし、自己決定を促し、尊重するように努めている。また、自己決定できない入居者についてはアイコンタクトや表情、仕草等の観察、ノンバーバルコミュニケーションを重要視し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務や日課を優先することなく、入居者一人ひとりの意思や希望を尊重し、敬意を持って支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの状況下で外出の機会が減っているが、近場へのドライブや散歩。また、入浴後の更衣等はご本人の選択を促し尊重するように努めている。自分で選べない入居者には、季節にあった服装を職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しでも食事を美味しく食べて頂けるように、好みをお聞きして可能な限り料理や味付けを工夫している。季節に応じた行事食の提供も行っている。食事の準備も一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の記録、水分摂取量の不足が懸念される方の飲水量の記録と把握、定期的に行われる血液検査ではタンパク質量等の栄養状態を主治医に助言を求め、個々に支援している。食事形態も入居者の嚥下能力に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声掛けを行い、介助が必要な方は職員が行っている。残渣物の確認は職員が行っている。必要に応じて提携先の歯科医師による往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録して排泄パターンを把握するように努めている。声かけと誘導を積極的に行い、失禁を減らし、同時にオムツからリハビリパンツ、布パンツへの移行を目指す支援を行っている。失禁に対しては利用者の羞恥心に配慮しながら自尊心を傷つけないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は利用者の精神状態にも大きく影響を及ぼすため、回数、量、状態の観察と把握に努めている。水分摂取、運動、腹式呼吸、食事等にて自然排便をうながしている。状況により下剤を使用し排便を促すこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は必ず利用者の意思を確認する。拒否の場合は無理強いすることはない、希望に沿うようにしている。入浴剤を使用し、温泉気分や香りなども楽しんで頂けるよう工夫している。また、洗身や洗髪はご自分でして頂き、できないところのみ介助するように支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時の日光浴、適度な運動、洗濯物たたみや食事の準備、レクリエーションや行事への参加を促し、リズムと張りのある生活が送れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を個人のファイルに保管し、薬の作用、副反応を理解できるようにしている。また、誤薬を防ぐため、必ず二人の職員で確認してから利用者へ薬を渡すようにしている。体調に異変があれば速やかに主治医に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おかずの次ぎ分け、食器洗い、洗濯物干しやたたみ、ゴミ箱作り等を手伝って頂き、感謝の言葉も必ずお掛けする。また、天気の良い日は散歩やドライブにお連れして気分転換をはかれるようにしている。買い物支援はコロナの状況下、実施していない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況下、積極的な外出支援は行われていない。感染症に配慮し、散歩や人混みを避けながら野外へのドライブにお連れしてしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は事務所にて保管している。必要に応じて、事務所より現金をもらうか、施設の立替によって買い物代や美容院代を支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、必要に応じて本人が連絡している。お持ちでない方は職員が連絡し、ご家族と話ができるように支援している。年賀状を書くときなどは職員が代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場であるリビングには、季節の花や季節を感じられるような絵を飾ったりしている。玄関には月ごとに利用者が作成した絵を展示。廊下にも利用者作成の絵や日々の活動の写真を展示し無機質な空間ならないように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者どうしで過ごせるように、テーブルや座席、ソファの配置を工夫してしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅で暮らしているような落ち着いた雰囲気を出すために、自宅で使用していた家具や調度品を置いて頂くようお願いしている。各担当職員が定期的に環境整備も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、障害物がないように心掛けている。トイレには目印の張り紙をし、各居室には表札を設置して、一目で分かるようにしている。		